

たがゆえに、興味深い記録になっている。表題のとおり本書は、Cornerさんの植物採集をしたブタオザルたちの記録である。

ケンブリッジ大学を卒業してすぐの1929年2月にシンガポール植物園の副園長として赴任したCornerさんは、前任者のT. F. Chippを継いでマレー半島のキノコ相を調査することが特別な任務だった。しかし、好奇心の特別旺盛な彼は、熱帯林の樹木に興味を抱きキノコの端境期に採集を始める。どうやって採集するか？ ココナッツの採取を見て、このブタオザルを使ってみてはどうかと考える。

1937年にタイとの国境に近いTumpatの原住民から28マレードルで若いブタオザルを買う。赤を意味するメラという名を彼は与える。本書は、Cornerさんとメラとの出会いの日々から始まる。飼育の記録、どうやって採集するか。しかし、最愛のメラは、300種もの樹木を採集してまもなく死んでしまう、しかし、彼はあきらめない。プテ、ジャンブル、メラ2世を原住民から買う。再び飼育と教育が始まる。

本書には、直接植物についての話しは登場しない。しかし、本書はどうやって熱帯林の樹木をCornerさんが採集したか、また彼が動物に向ける目を知るうえで興味深い。彼一流のユーモアが随所に登場する。植物だけでなく動物好きの読者、Cornerさんや熱帯の自然に興味をもつ方々に推薦したい。

(大場秀章)

□Brummitt, R.K. (compiled): **Vascular plant families and genera** 804 pp. 1992. Royal Botanic Gardens, Kew. £24.00.

WillisのA Dictionary of Flowering Plants and Ferns(1973)は、科名、属名を調べるのに便利であった。Willisの本は長い歴史をもち、1973年のものは8版である。その5版や6版では科名・属名だけでなく、普通の英名まで採録されていたし、短い解説や図もあった。Willisと同じCambridge University Pressから1987年にでた、D. J. MaberleyのThe Plant-bookは主要な属に解説があり、Willisの旧版に近いかたちになった。これは世界の植物の便覧としてたいへん便利だと思う。

Willisの新版の方は長らく絶版であったが、この系統に沿うのが、標題のものといえる。これには、キュー植物園で採用されている世界の維管束植物の属とその科のリストで、顕花植物では8つの分類体系での分類上の位置の比較を伴う、という内容の副題がある。副題にあるとおり、これはキュー植物園で採用している分類体系を一本としたという性格が強い。従って、Willisよりも正名と見なす属名と異名とする属名が識別しやすいように書体を変えて印刷されている。

現在世界中で植物情報のデータベース化が進められている。キューでもはやくからこれに取り組んできた。本書その成果でもあり、その発端は1974年に遡ると前書きに記されている。私の想像を加えれば、現在進行中の属名のCurrent useの選択ともこの出版は無関係ではないであろう。

それはともかくとして、本書はWillisの新版に代わる科名・属名の辞書としてたいへん便利である。

(大場秀章)